

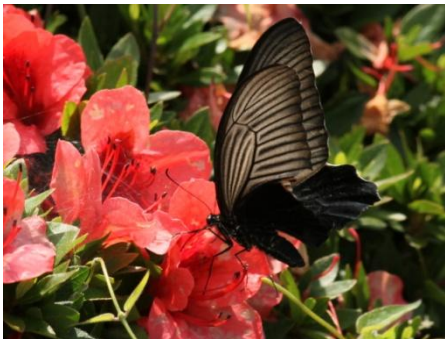


## 愛川ふれあいの村6月の風景

# 平成27年6月 自然のたより

梅雨入りしたにも関わらず、晴天が続いた6月。雨が降ると嬉しそうな葉の輝きを感じます。

日差しの強い日が続きます。鳥も暑さには弱いのか、水たまりで水浴びをし、身体を冷やしている姿が見られました。これからやってくる夏本番に向け、たくさんの昆虫たちが顔を出し始めています。



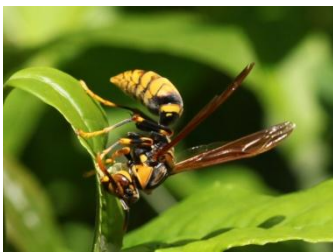
蜜を吸うナガサキアゲハ



クモの巣にかかる雨粒の宝石



宙を舞うハクセキレイ



キアシナガバチ



喉を潤すカワラヒワ



翅を休めるキタキチョウ



水浴びをするムクドリ



雨露に濡れたアサガオ



雨粒を背負ったマルカムシ



マエジロオオヨコバイ



ダイミョウセセリ



コクワガタ



ホタルカミキリ



ヨコツナサシガメ



キキョウソウ



## ◆アジサイ◆

### アジサイの色って何で決まるの？

梅雨の時期に赤や青など、綺麗な色で私たちを楽しませてくれる『アジサイ』。

なぜ、アジサイは同じ株から赤や青などの色が出るのか、知っていますか？

実は、土が酸性かアルカリ性かによって、アジサイの色が変わると言われています。酸性が強ければ強いほど『青』が濃くなり、海外の乾燥地帯などのアルカリ性土壌だと『赤』が強いアジサイが咲くそうです。

アジサイはもともと、緑色から青色、そして赤色と色変わりしていきます。これは、最盛期に向け緑色を作る「葉緑素」が薄れていくのと同時に「アントシアン」という物質が出てきます。そして、根から吸い上げた「アルミニウム」が加わり、『青色』へと変化するのです。どんなにアルミニウムを土が含んでいても、それを吸う、根に元気がなければなりません。なので、同じ土から出た株でも土にアルミニウムがたくさん含まれているか、いないかということと、アジサイの根が元気であるかどうか、アジサイを青にするか赤にするのかの決め手となるわけです。

地域によっては、まだアジサイが咲いているでしょう。アジサイを見かけたら、ぜひ観察してみてください。



## ▼イチョウは針葉樹？広葉樹？▼

『針葉樹』とはマツやスギなど、針のように尖っている葉を持つ木のこと。『広葉樹』とはサクラやブナなど、平たく広い葉を持つ木のこと。では、イチョウはどうでしょう？

イチョウの葉は平たく広いので、広葉樹だと思うかもしれませんが、実は、針葉樹でも広葉樹でもないのです。イチョウの実である銀杏は、種になる部分(胚珠)が剥き出しの状態である裸子植物に分類されます。

よってマツやスギと同じ裸子植物という分類上の位置付けで『針葉樹』として扱われているのです。



## ★旬のお知らせ：6月★

6月になると雨の時期が多くなります。

【梅雨】とは、6月から7月にかけての初夏の長雨のこと。もともと中国では長雨のことを「バイウ」と呼び、『徼雨』と書いていました。『徼』は、「カビ・バイ」と読み、長雨でカビが生え、食べ物や衣類まなどがだめになってしまうことから、『徼』という字を使って『徼雨(バイウ)』と読んでいたそうです。

『徼』から『梅』の漢字になった理由としては、『風情がない』ということから。【風情を感じる心】は日本人の昔から存在する美意識といわれています。日本で感じられる風情を大事に暮らしていきたいですね。



◎Page

注目ポイント◎

七月は環境省が定めた「熱中症予防強化月間」です。

近年、屋外のみに限らず、屋内や学校、そして高齢者や青少年などの年齢を問わず、熱中症で救急搬送される方が増えています。

熱中症を引き起こす条件として、「環境」「からだ」「行動」によるものが考えられます。環境は、気温や湿度が高く、風が弱いといったことや、エアコンのない部屋や急激に暑くなった日などです。からだは、汗や皮膚温度が調節できず、体温が上昇し体内に熱が溜まってしまいう状態。行動は、激しい筋肉運動であったり、長時間の屋外作業をするなど。これらの条件が重なると、「熱中症」となるのです。

熱中症にならないためには涼しい服装を心がけ、こまめな水分補給をし、帽子をかぶって活動することです。

正しい知識を持って熱中症にならないように活動しましょう。



※環境省の「熱中症予防情報サイト」では、生活の場での暑さ指数というものが出ています。いろいろな情報を参考に熱中症の予防につなげてください。

発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611 HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・大瀧裕基子

文章：大瀧裕基子

編集：大瀧裕基子・吉田文雄



愛川ふれあいの村で、検索★